

研修報告 C-1 班：チーム仲良 C(し～)

発表テーマ

「ニーズに合わせた大学教育」を通じて「人材育成」を実現し、「国力の向上」に貢献する。

テーマ選定理由

【大学の役割について】

大学の役割とは何かについて議論を行い、「社会との架け橋」、「人材育成」、「生涯学習の場の提供」、「教育の充実」などの案が出ました。

その中で、私たちは「**学生と社会との架け橋**」をキーワードとし、“学生”とは「留学生」「社会人」「高校卒業後の18歳入学生」を対象として議論を行いました。

その結果、学生と社会との架け橋を実現するために、大学は「**ニーズに合わせた大学の創造**」が必要であると考えました。

【大学の現状について】

大学の現在の問題点を大学職員情報化研究講習会—応用コース※1—開催報告やユネスコ文化統計年鑑などを参考に議論した結果、以下のような意見が出ました。

- ・成績は優秀だが、社会に出てから躓いてしまう学生が多く、卒業後の正規雇用者が少ない(45%が非正規雇用者)
- ・大学で学んだことを就職してから活かしていない(活かしている学生は1割程度)
- ・海外へ留学する日本人が減少している(2004年度：8.3万人→2010年度：5.8万人に減少)

※1 参考 URL：<http://www.juce.jp/kenshu/oyo2013reports/index.html>

※2 参考 URL：http://www.kantei.go.jp/jp/singi/kyouikusaisei/pdf/dai3_1.pdf

【役割を果たすために、必要な取組】

大学の現状を踏まえた上で役割を果たすために、必要な取組として、3本の柱が必要であると考えました。

1. 質の高い学びの場の提供
2. 国際感覚の涵養
3. キャリア教育の充実

→この3本の柱を通じて**国内外で通用する人材の育成が重要!**と考えます。

問題点の深堀・解決策の検討

必要な取組における問題点の具体例を挙げ、その解決策を「**教員への働きかけ**」「**地域社会への働きかけ**」「**大学としての取組**」の3つの観点から解決策を検討しました。

黒字が問題点、赤字が解決策としてマトリックス形式でまとめました。(表1を参照)

表 1

	教員への働きかけ	地域社会への働きかけ	大学としての取組
質の高い学び場の提供	学生の学習意欲の低下 教員による授業の質の向上 学生参加型の授業の実施	社会に出てから学べる場が少ない 生涯学習、公開講座、通信教育を実施し、社会人教育の質を高める	学生の授業の怠慢 学則の厳格化 授業レベルを上げる ゼミコンテスト等を実施
国際感覚の涵養	外国人と話す機会の減少 チャットルームの設置	外国人留学生在が地域になじめない 外国人留学生と交流フレンド制度の充実	外国人留学生支援制度の不足 参加型の授業増加、 留学生と日本人学生の交流、 留学支援の充実
キャリア教育の充実	産学連携の不足 教員の専門分野を発展	社会経験を積む機会が少ない 企業との製品共同開発等の実施 インターンシップ参加者の不足 1, 2 回生からの参加可能に	入学前から就職を意識し過ぎた学生の増加 就職後のイメージができる授業の実施(キャリア形成教育の必修化)

表の具体例

問題点：外国人留学生在が地域になじめない

解決策：地域を巻き込み日本文化を体験させるプログラムを設置する。また、日本語での講義を行い、日常生活になじめるように語学研修などを行う。

問題点：外国人留学生支援制度の不足

解決策：日本語を学びたい外国人留学生在と、留学したい日本人学生の交流の場を設ける。

大学のイノベーションの提案

解決策を実現するために、学部学科を越えた全学的教育プログラムの実現が必要になると考えました。上記の問題点を深掘したところ、現在の大学教育では、ニーズに合わせた人材の育成ができていないということが分かりました。そのためには、職員が教員や地域に働きかけ、潤滑油として働いていく必要があります、これからは「教職協働」が重要であるという結論に至りました。

まとめ

大学を取り巻く環境が著しく変化していく中で、職員は様々な取組を行っていかなくてはなりません。教員や地域と連携することにより、学生に対して学部学科を越えた全学的教育プログラムを実現し、世界で活躍する人材を社会に送り出す義務があります。そのためにも、「大学は学生と社会との架け橋」という役割を全うし、時代のニーズに合わせた大学を創造していかなくてはならないと考えます。